



「五重塔、ブルーライトアップ」

四季の部 銀賞 日野市 設楽 誠一



防災の日におもう

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田 純一

九月一日は防災の日です。この日は十万人以上の死者を出した大正十二年の関東大震災が発生した日であり、またこの頃が台風が多いとされる立春から二百十日にあたることにより、「災害への備えを怠ることなく、災害の未然防止と被害の軽減につとめるべく」、昭和三十五年に防災の日が制定されました。

この防災の日を迎えると、私は大正元年生まれの亡き母のことを思い出します。母は生家があった赤坂（現在の東京都港区）で関東大震災に遭い、その体験からか、こと地震に対しては敏感に反応していたことをみていた私は、子供ながらに本当に恐ろしい地震だったのだとよく思ったものでした。

関東大震災後の日本では、台風や大雨による水害や土砂崩れ、地震やそれにもなう津波、火山の噴火等、多くの災害がありました。「天災は忘れた頃にやってくる」とよく言ったものですが、特に近年は忘れる間もなく、毎年各地で災害が以前に比べて頻繁におきていると感じているのは、私だけではないはずです。

私が小さい頃、高幡から八王子市の北野までの尾根伝いにハイキングコースがあり、途中には簡素な遊び場、小さな動物園、それから茶店もあったように記憶しています。それから五十年以上の時を経た現在、それらの施設はとうに無く、ハイキングコースがあった山は宅地の造成、道路の整備等で寸断されて見る影もありません。一方、人の手が入らなくなった山林は荒廃が目立つようになりました。自然と人の営みとのバランスが崩れて久しいようです。

大気中の二酸化炭素濃度と平均気温の上昇は紛れもない事実であり、これと世界規模での気候変動による多くの災害の発生との関連性は、「疑い」から「確信」へと変ったと見るべきでしょう。

また世界では、未だコロナウイルスの収束が見えず、日本でも緊急事態が続いています。自然災害とコロナウイルス、与えられたこれらの問題を克服することが明日への一歩であり、私たち一人一人が自覚し乗り越えて行かなければなりません。

疫病退散大護摩供毎座勤修

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々の快復と一刻も早い終息を祈念しております。

お不動さまの心——(一一四)

現代の世相から (74) 廣 澤 隆 之

寺の住持をしていると亡くなった人と関わるさまざまな人間の生き方を教えられるます。

最近、高齢で亡くなった女性の納骨が行われました。その女性の働き盛りの三人の娘さんが協力し合って墓地を守るとの思いを受けとめ、私も納骨の儀式に臨みました。いよいよ墓が開けられ、お骨が墓地に納められました。すると娘さんの一人が突然スマートフォンを取り出し、墓地の中を撮影しようとした。咄嗟のことでしたので、私も熟慮する間もなく写真に撮ることを控え、お母さんのお骨の場所をどうかしっかりと心に留めてくださいとお願いしました。彼女なりの思いがあったのでしようが、祈りの心に結びつかないように思えました。

に記録しておくのだということでした。

デジタルカメラやスマートフォンの普及によって、このように写真撮影が簡単に行われるようになると、亡くなった人との心の結びつきまで写真の画像に頼ってしまうような気がします。思い出が小さなスマートフォンの機器の中に閉じ込められているかと思うとやるせない気分になるのは私だけでしょうか。このようなことを考えていると、かつての記憶が蘇ってきました。毎朝、本堂でのお勤めを終えてから庫裏の居間の仏壇に回向することが習慣になっていますが、両親が亡くなって間もない頃のことです。それまでは両親と若くして亡くなった義姉の小さな写真を仏壇に飾っておきました。しかし毎日位牌に手を合わせ、故人との心の結びつきを記憶のなかで深めるためには、写真がないほうがよいことに気づきました。写真があると、その写真のイメージが心を支配しがちになります。父や母の思

い出は一枚の写真に固定できるものではありません。長く共にした生活の中で無数に思い出があります。それは私をとても愛してくれた義姉にもいえることです。

ある日、思い切って両親と義姉の写真を仏壇から除いてみました。するとその時々私の思いも重なって、両親や義姉との結びつきが深くなり、落ち着いた気分になりました。それ以来、我が家の仏壇にはいくつもの位牌が並びますが、写真は置かないことにしています。

このように

なことを考えていると、

写真は無限につらなる人生の一部を切り取った画像にすぎないし、凝縮された人生がたった一枚の写真に映し出されているのだろうか、といった疑問がわいてきました。そして一人の代表的な写真家のことを思い起こしました。仏像写真でもすぐれた作品を残している土門拳氏のことです。かつて展覧会で彼の撮影した筑豊の子供たちの写真にとても心を動かされました。私

と同世代と思われる子供たちが貧しい中で輝くような笑顔を浮かべている写真は炭鉱の町筑豊とそこに生きる人びとの真実を見事に凝縮させたように思いました。まさに写真が真実を写しているといえるでしょう。そしてそこには土門拳氏の貧しい社会で生きる人々たちへの共感があるように思えました。

私たちがデジタルカメラやスマートフォンで気軽に撮る写真には真実が写し出されているの



時代江戸 薩摩公実像 地蔵菩薩像 (伝)

いただいて故人の霊が安らかになることを願うのです。ところがこのような祈りの意義が見失われ、仏さまの像がなくとも気にならず、写真に向かい合うのはどうも納得がゆきません。

祭壇に丁寧に仏さまをお祀りする葬儀社もありますが、遺影写真だけ飾る葬儀社もあります。私は仏さまが祀られていない場合、持参した本尊大日如来の仏像を祀るように葬儀社に依頼します。写真では写し出せない心の真

実の世界、仏さまの世界を忘れてしまった現代の風潮が葬儀の場にも広まっていることに心が痛みます。

私たちは合掌し、仏さまの前で頭を垂れ、仏さまの慈悲に満ちた救いの力に思いをゆだね、どうにもならない苦しみの現実を受けとめるのです。この祈りの世界が私たちの日常生活で忘れられることで心はずさんでしまいます。

写真を撮るといふ単純な行為でさえも、そこに深い魂の働きがあつてほしいものです。

..... 廣澤隆之先生のプロフィール

● 大正大学名誉教授

● 浄福寺住職

ご 奉 納 御 礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。

(敬称をすべて省略させていただきます)

境内整備緑化資金

寄進者芳名

(令和三年五月一日～七月三十一日)

日野市 太田 和 徳
彦根市 西澤 政 男
(三回)

二本 日野市 増 茂 典 雄
八王子市 木 下 義 徳
八王子市 木 下 良 子
横浜市 村 松 二 朗
横浜市 村 松 卓 峰
相模原市 秋 山 直 子
相模原市 水 希
富士吉田市 加々美 和 美

幟旗奉納者芳名

(令和三年五月一日～七月三十一日)

二本 新宿区 河 西 孝 子
多摩市 小 森 靖 久
立川市 大 森 久 美 子

千体地藏尊

奉安者芳名

(令和三年五月一日～七月三十一日)

練馬区 木 口 怜 史

一、品名 マスク

奉納者 国立市

佐 藤 ふじ子
(手作り)

一、品名 レンゲシヨウマ・六鉢

奉納者 相模原市

湯野川るみ子

一、品名 アジサイ・十鉢

(赤色京かのこ)

奉納者 町田市

吉 原 辰 男



く 献花のおすすめく

お 花 講 講 員 の 募 集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。毎年秋季大祭大般若会(九月二十八日)に御招待(法話・大般若会参加・お護摩札授与・精進料理接待)致します。大勢様ご入講下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 高幡山お花講
一、会 費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会、萬燈会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 遍照講高幡山支部

一、参加資格 どなたでもご参加いただけます

一、指 導 密厳流遍照講師範

一、会 費 一ヶ月 三、〇〇〇円

(但し、鈴・鉦などの道具は別費)

一、稽古日時 月二～三回 午前十時～十二時

問い合わせ先 高幡不動尊内遍照講高幡山支部

電話 〇四二(五九一)〇〇三二



幾歳も

てしおにかけて

はぐくみし

海山こゆる 恩愛の

かぎりも知らず

うたわばや 我等の幸を

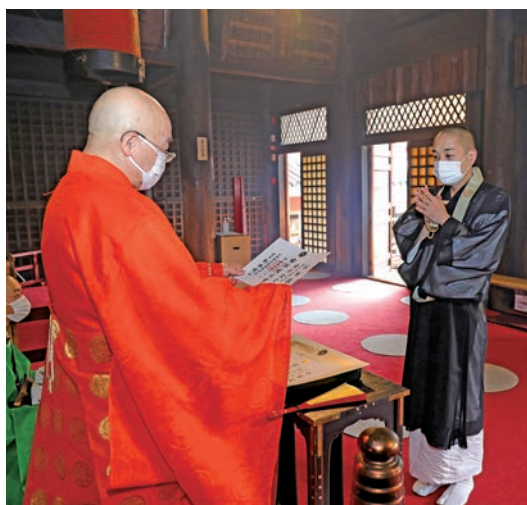
尽さばや 我が父母に

「四思和讃」



大施餞鬼法要 大日堂にて 8/15

高幡不動尊 フォトニュース



高尾両山講新先達に委嘱状を授与 7/1



あじさいまつり写真コンクール審査 7/29



不動堂前階段工事～9月下旬まで



弁天池の蓮～今年も綺麗に咲きました



青葉まつり法要 6/15



奥殿の展示替えを行いました。
金・胎大日如来像



「あじさいが見守る八十八ヶ所巡拝結願」
あじさいの部 銅賞 日野市 羽賀 道行



曼珠沙華 見頃は秋彼岸の頃です。



「あじさいと記念の写真撮ります」
あじさいの部 銅賞 新座市 佐々木庄松



「秋麗の六地藏」
四季の部 銀賞 海老名市 清水 進

秋の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◇ 九 月

○12日(日) フリーマーケット

○19日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(火) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

○23日(祝) 彼岸会法要(午前七時) 大日堂

○24日(金) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

○28日(火) 秋季大祭大般若会 お花講総登壇日

◇ 十 月

○10日(日) フリーマーケット

○17日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(木) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

○24日(日) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

○28日(木) 月例祭(ご縁日)

○30日(土) 11月7日(日) 文化財ウィーク

◇ 十 一 月

○十一月中 七五三祈願

○8日(月) 14日(日) 世界糖尿病デー

五重塔ブルーライトアップ

○14日(日) フリーマーケット

○21日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(日) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

○22日(月) 萬燈会

○23日(祝) 花塚供養

○24日(水) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

○28日(日) 月例祭(ご縁日)

諸行事のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため諸行事を一部中止・縮小させていただきます。又、開催が予定されている行事も中止となる場合がありますのでご了承ください。

第五十回高幡不動尊菊まつり

十月二十八日(木) 11月十七日(水) 開催

七五三・新生児祈願のご案内

お子様の健康をお祈りする七五三祈願は十月11月中毎日、新生児祈願は一年中ご修行しております。

◎ご修行時間 午前九時1午後四時
◎ご祈願料 金三、〇〇〇円以上(お札・供物料含む)

世界糖尿病デー五重塔

ブルーライトアップ

十一月八日(月) 14日(日)

(ライトアップのみ開催)

高幡不動尊もみじまつり

十一月十八日(木) 30日(火) 開催

(ライトアップ 十七時1二十時)

萬燈会・第十五回たかはたもみじ灯路

十一月二十二日(月) 23日(火) 中止

(二十二日山内僧侶のみにて法要)

※第十五回たかはたもみじ灯路は両日中止致します。

高幡写仏会

中止



大提灯ご奉納のお願い



ご奉納いただいた大提灯

当山では萬燈会・正月・大祭・節分等の大行事の折、各所に大提灯をお飾り致しますのでご協賛の程お願い申しあげます。

尚、募集要項は左の通り

- 一、品 名 萬燈会及び大祭用大提灯
(ご奉納者芳名入り)
- 一、募集数 五十基
- 一、志納金 金五〇、〇〇〇円
- 一、申 込 当山事務局又は
宝輪閣受付

(ご連絡下されば申込書をお届け致します)

「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」刊行のお知らせ

平成四年に出版された「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」を再編し、新冊子として刊行致しました。令和五年には弘法大師御生誕一二五〇年を迎えますのでお大師様の信仰を深め八十八ヶ所巡拝をされてはいかがでしょうか。

一部 一、〇〇〇円

※ご希望の方には郵送致します。

(送料三〇〇円)

電話 〇四二・五九一・〇〇三二

龍華会まで

「在宅写経」のおすすめ

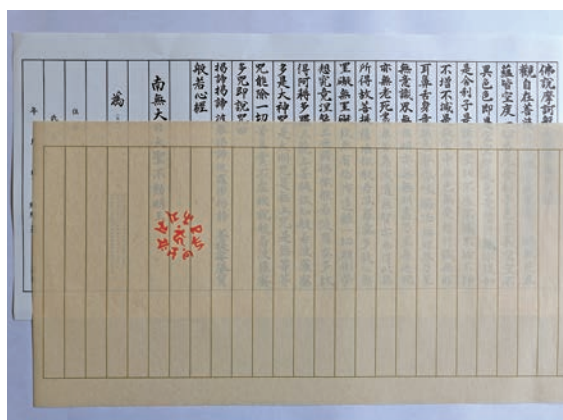
高幡不動尊では檀信徒の皆さまにご自宅出来る写経用紙をご用意しております。時節柄、ご自宅にいる機会が多い時に、ご自身の修養の為に写経を始められる事をおすすめします。

写経用紙 一卷 二、〇〇〇円(送料 三〇〇円)

写経用紙を郵送ご希望の方は、電話又はファックスで高幡不動尊事務局までご連絡下さい。写経用紙と一緒に払込取扱票を同封しますので、郵便振込でお支払い下さい。振込手数料は無料です。(複数巻ご希望の方は電話にてご連絡下さい)

電 話 〇四二(五九一) 〇〇三二

ファックス 〇四二(五九三) 三〇三八



※ファックスでお申し

込みの方は、当山のホームページから申込書を印刷してご利用下さい。

※書き終わりました写経用紙は、当山にご返送下さい。写経用紙は当山のご本尊・不動明王様の御宝前にご奉納させていただきます。

御護摩札郵送のご案内



大護摩札 30,000円以上 送料 800円 長さ 58cm	中護摩札 10,000円 送料 800円 長さ 52cm	護摩札 5,000円 送料 600円 長さ 45cm	護摩札 3,000円 送料 400円 長さ 37cm	懷中札 3,000円 送料 300円 長さ 11cm	交通安全祈願札 3,000円 送料 300円 長さ 15.5cm
---	---------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---

当山では御護摩札の郵送による授与も受け付けております。

郵送ご希望の方は、必要事項（お名前、お願い事、生まれ年、郵送先住所、ご連絡先等）をご記入のうえ、郵便（葉書、封書等）、又はFAXでお申し込み下さい。御札が届きましたら、同封の払込取扱票（郵便局）にてご送金下さい。

お申し込み・お問い合わせは高幡不動尊事務局まで

〒191-0031 東京都日野市高幡7 3 3 番地

高幡不動尊 護摩札郵送係

電話 042-591-0032 FAX 042-593-3038

※電話、メール、インターネット等でのお申し込みは受付していません。

御札を複数郵送希望の場合、送料の金額が変わります。

弘法大師八十八軀碑

お詫びと訂正

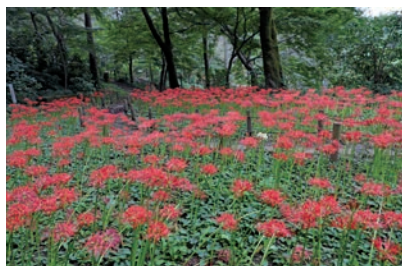
山報第一一五号「弘法大師八十八軀碑」の記事中、梵字「𑖀 (yu)」とすべき所を「𑖀」と記載しておりました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

「𑖀」は弥勒菩薩を表す種字・梵字です。お大師さまと弥勒菩薩の関係を端的に示す文章が、当山大師堂の両脇の柱に掛けられています。向かって右に「哀愍衆生 不闕日日影向」、向かって左に「都卒天上下慈氏之下生」と書かれています。その内容は「お大師さまは、私たち衆生が苦しんでいるさまを見て哀れみ悲しんで、常に私たちに救いの手を差し伸べておられます。そして今、お大師さまは都卒天に往生されて、

何時の日か慈氏（弥勒菩薩）が地上に現れて全ての衆生をお救い下さる時を待っておられます」というほどの意味です（山報第五三号「お不動さま救えて？」より再掲）。

山主の主な動静

6/15 青葉まつり法要・6/18 成田山大阪別院明王院主監飯島照輝大和尚本葬・6/21 仁和会総会（京プラハ王子）・7/5 潤徳小評議会・7/15 孟蘭盆会法要・7/16 観光協会会議・8/15 孟蘭盆会大施餓鬼法要



曼珠沙華 見所は山頂馬場付近です

あじさいまつり

山内八十八ヶ所めぐりクイズ

本年は六七三名の方にご解答いただき、全問正解は五六三名でした。

参加された皆様の感想が寄せられていますのでご紹介いたします。

町田市 鷺野 均美
毎年あじさいまつりを楽しみにしています。今年は開催されると知り、早朝から参りました。

山を歩きながら心が洗われていくようで本当に有難いです。日々の疲れが癒されました。ありがとうございます。

世田谷区 水谷みつこ
はじめて来ました。番号を追いつけていくので、わかりやすい。問題も時々頭を使うので足にも頭にもよい刺激になりました。地図!! ありがとうございます。

上尾市 山下 智子
初めてお参りさせていただきまして。伽藍もすばらしく色々と勉強させていただきました。鳴り龍も感動しました。あじさいの種類も多く、クイズをしながら楽しく散策出来ました。秋にも是非来たい

と思いました。ありがとうございます。

横浜市 橘 光江
今年も変らず咲き満ちた四葩明りの中、八十八ヶ所巡りをさせていただきました。

澄んだ夏うぐいすの声に癒され、コロナ禍を忘れる心の安らぎを賜りました。心よりお礼申し上げます。

世田谷区 西崎 紗羅
もんだいが、たのしかったもつとたくさんクイズがしたかった。さらさら。

立川市 松田 克美
健康維持の為に八十八ヶ所めぐりをしています。長く続けて行こうと思います。

コースの最後の方に木の枝越しに聖天堂と大師堂の屋根を臨む所があり、美しいなと思います。

大田区 市川 千夏
けっこう歩きますが、運動

になって健康に良さそうで楽しかったです。クイズめぐりで一つ一つ探しながら数えて答えていくのが更に楽しめました。あじさいは満開ではなかったけれど綺麗でかわいいあじさいがたくさん見れて癒されました。

日野市 齊藤 泰之
巡拝中に四歳の息子が転倒しましたが、間一髪頭を打たずに済みました。お大師様が守ってくれたのだと思います。私と妻は程よい疲れと達成感で楽しく過ごせました。ありがとうございます。

江東区 姜 国浩
クイズめぐり面白かったです。自然と文化と人をつなぐ良いアイデアだと思います。

府中市 飯田ミドリ
八十八の弘法大師様に見守って頂き、心が清く洗われた気持ちになりました。

世界中の人たちがコロナに勝って、平和で穏やかな日常を一日でも早く取り戻せる日が来ますように、祈りをこめて……。

朝霞市 平野 剛玄
目印の何もない山登りはしんどさが先立ちがちだが、順

番をたどりクイズを解きながら巡ると目標ができ、あれこれ思いを巡らして楽しんでいる間にゴールが近付いてくる。人生と同じ様なものかもしれないと思いつつ巡りました。

川崎区 永野 賢二
あじさいが綺麗で先週につぎまた来ました。

川崎在住で川崎大師によく行きますが、あちこちにお大師様ゆかりのお寺があるので調べて行ってみようかと思えます。それだけお大師様は全国を旅したのですよね。同じ苦労をしてみます。

立川市 佐藤香代子
初めて山内八十八ヶ所巡りをしました。たくさんあじさいに囲まれ、あつという間に達成できました。

コロナ禍で遠出ができない中、近場で小旅行した気分も味わうことができた気分です。次は秋に紅葉を見ながら、もう一度めぐってみたいです。

国立市 小玉 雅康
馬場のあとの山あじさいが見事でした。毎年、この時期は参拝とあじさい巡りに来ています。

山内八十八ヶ所めぐりクイズの正解

① お菓子の名前の紫陽花は?

「金平糖」

⑩ 境内で産卵しているのは?

「トウキョウサンショウウオ」

② お釈迦様入滅後、教えをまとめる弟子の集まりは?

「結集」

③ 日野市の花は?

「菊」

④ 土方歳三の小姓・市村鉄之助が日野に届けたのは?

「歳三の肖像写真」

⑤ 来年より義務化予定の富士山の入山料は?

「二〇〇〇円」

⑥ 一八三五年生まれは?

「前島密」

⑦ 五重塔から見えるのは?

「西武ドーム」

⑧ 八十八番で流れている歌は?

「御詠歌」

⑨ 弘法大師を嵐から救ったお不動様は?

「波切不動」

第三十七回あじさいまつり 短歌大会

今大会は三〇〇首の応募があり、四名の先生方に各五十首選を依頼し合計点で上位三十名の入選が決まりました。

選者は次の先生方です。(敬称・肩書略・五十音順)

大河原惇行・狩野 一男・長澤 ちづ・松坂 弘の諸先生

第一位

あぢさゐの 花を縫ひ込む 如く降る

高幡不動の 絹糸の雨

世田谷区 長谷川 瞳

第二位

あぢさゐは 哀しみの色 水のいろ

少し艶めく 通夜の灯りに

府中市 渡辺 喬子

第三位

余命知り 写経三百 託す義父

高幡不動へ 我が納めたり

板橋区 伊藤恭一郎

第四位

秋桜子 逝きたるけふは

紫陽花忌

高幡の径 歩み偲べり

調布市 福島 千冬

第六位

感染の 収まる願ひ

人々は 大きマスクを

仁王にかけて 八王子市 坂本 由子

第五位

紫陽花を 見越しの花と

讀へむか

ワクチン接種 二回目終はる

世田谷区 田村 悦子

第七位

あぢさゐを そがひに立てる

六地藏 全うせむよ

われの残世 八王子市 千明 武紀

第八位

降魔殿に 不動明王

拝めば らふそくの火の

まぼぼと揺らぐ 国立市 花町 淳一

第九位

年々を 面差し変えぬ

六地藏 木もれ陽の元

われを迎うる 日の出町 宮田 美子

第十位

早咲きの あぢさゐあはく

色づける 園に球児の 歓声ひびく

杉並区 坪井 真里

第十一位

卒寿過ぎ 農に終止符

打ちにしが 息が作りたる 野菜見に行く

日野市 大野 綾子

第十二位

全山に 咲くあじさいを

見てをりぬ ワクチン接種 無事に済ませて

国分寺市 越前 春生

第十三位

閉ざされし 鐘楼堂の

白壁に やさしく揺るる

紫陽花の影 横浜市 橋 光江

第十四位

しばらくは 咲く気配なき

あじさいに 金色の蜘蛛は 手足伸ばせり

調布市 石川 淳子

第十五位

大きな 渦乾きたる

仏足石 ぬくもりをもつ

蓮の台座に 武蔵野市 藤井 徳子

第十六位

お不動さまの 紫陽花

しのびつつ庭の あじさい二輪

つつしみて切りぬ 東大和市 石川るみ子

第十七位

母を追ふ まだいとけなき

男の子あて 梅雨の晴れ間の

あぢさゐの花 多摩市 中道 操

第十八位

緑陰に 咲く紫陽花の

ひとりごと 石段くだる わが独り言

川崎市 大木かづ子

第十九位

紫陽花は 花びら白く

咲き揃い 色を変えゆく

梅雨入り近し 多摩市 佐藤 昌喜

第二十位

紫陽花を 道しるべとし

訪ねゆく 父母眠る

高幡不動 大田区 石井美登理

第二十一位

コロナ禍に 静かに咲きし

紫陽花よ 塞ぐ心に

明りをとめす 伊勢原市 黄金井春男

第二十二位

池に映る 青きあじさい

こもごもに 緋鯉真鯉が

つつきてあそぶ 国立市 高嶋 肇

第二十三位

大日堂 四葩寄り添ふ

石畳 示寂の足音

消ゆることなし 日野市 笹木 久男

第二十四位

コロナ禍の 雨の高幡

あぢさゐは 濡れた体で

われを迎へり 武蔵村山市 松永 昇三

第二十五位

露地裏は
行き止まりなり

あじさい愛でて
しばし佇む

世田谷区 北條 忠政

第二十六位

今年また

歩み運べり
あぢさゐの

てらはゆかしく
人絶ゆるなし

川崎市 濱田 英作

第二十七位

紫陽花の
柄の浴衣を

着てみたり
九十七歳

まだまだ元氣
多摩市 高橋 愛子

第二十八位

花柄の
青きスカート

ひるがえし
スキップしゆく

あじさいの径
羽村市 大戸紀久代

第二十九位

亀ヶ谷の
切通抜けて

化粧坂
あぢさゐ見つつ

鎌倉をゆく
三鷹市 奥 浩昭

第三十位

紫陽花の
愛好者には

それぞれの
好みあるらし

その前に立つ
八王子市 藤田 孝

第三十七回あじさいまつり

全国俳句大会

今大会は一六四八句の応募があり、九名の先生方に各七十句選を依頼し合計点で上位三十名の入選が決まりました。

選者は次の先生方です。(敬称・肩書略・五十音順)

大久保白村・大竹多可志・才野 洋・笹木 弘
鈴木 貞雄・鈴木 節子・高橋 悦男・星野 高士
矢島 艶子の諸先生

第一位

声明の 句碑にしみ入る 濃紫陽花

第二位

老いるとは 生きてゆくこと 四葩咲く

第三位

句碑のみち 祈りのみちも 濃いあぢさゐ

第四位

紫陽花や 水琴窟は 黄泉の音

第五位

杉並区 松川 洋醉

第六位

一山の こゑを集めて 百千鳥

第七位

世田谷区 長谷川 瞳

第八位

忙し気に 畳む日傘や ござれ市 明子

第九位

濃紫陽花 瑠璃光浄土 金剛寺 弘幸

第十位

稲城市 徳植 弘幸

第十一位

鳴り龍に 願いは多し 梅雨晴間 敦子

第十二位

紫陽花や 毬もたげれば 手に雫

第十三位

日野市 中嶋 和臣

第十四位

慈悲の掌に 抱かれるやうに 四葩咲く

第十五位

川島町 小山内里路

第十六位

真つ新な 祐勝句碑や 四葩咲く

第十七位

参道の 一步や至福 風薫る 孝子

第十八位

護摩太鼓 鳴りて四葩の色変はる

第十九位

世田谷区 松本由美子

第二十位

怪しさを 秘めて優雅に 黒揚羽 桃英

第二十一位

関ヶ原に 樗の花の こぼれけり 桂子

第二十二位

日野市 萬代 桂子

第二十三位

新緑の 多摩の横山

第二十四位

慈恵の 抱かれるやうに 四葩咲く

第二十五位

八王子市 大串 若竹

第二十六位

あぢさゐの 毬の揺れば 影揺るる

第二十七位

瑞穂町 伊藤 久子

第二十八位

手水舎に 一枝白し 額の花 久美

第二十九位

国立市 吉田 久美

第三十位

世田谷区 吉野 新一

第三十一位

歳三の書や 濃紫陽花 絵美

第三十二位

茅ヶ崎市 岩崎 絵美

第三十三位

あぢさゐの 芽立ち満山 町屋八重子

第三十四位

国立市 町屋八重子

第三十五位

あぢさゐの 毬の揺れば 影揺るる

第三十六位

八王子市 大串 若竹

第三十七位

あぢさゐの 毬の揺れば 影揺るる

第三十八位

小金井市 橘田みち子

第三十九位

野の花を 籠に活けあり 坊涼し 久子

第四十位

瑞穂町 伊藤 久子

第四十一位

手水舎に 一枝白し 額の花 久美

第四十二位

国立市 吉田 久美

第四十三位

関ヶ原に 樗の花の こぼれけり 桂子

第四十四位

日野市 萬代 桂子

第四十五位

新緑の 多摩の横山

第四十六位

慈恵の 抱かれるやうに 四葩咲く

第三十七回あじさいまつり 写真コンクール

二年振りの開催となった今回は総数一三九五点（あじさいの部八七七点、四季の部五一八点）の作品を応募いただき、七月二十九日に審査会が行われ、合計一〇七点が入賞しました。入賞作品は九月二十八日まで五重塔千体堂に、三十日から十月五日まで京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターA B館五階ブリッジギャラリーに展示します。

上位入賞者

〈あじさいの部〉

金賞 日野市 橋本 昌利 (次頁掲載)

銀賞 調布市 北野 修 (下段掲載)

〃 調布市 北野 芳恵 (下段掲載)

〃 日野市 野村 明雄 (次頁掲載)

銅賞 日野市 小山 乾 (次頁掲載)

〃 新座市 佐々木 庄松 (本号五頁掲載)

〃 日野市 羽賀 道行 (本号五頁掲載)

〃 八王子市 佐野 軍英 (四年六月号掲載)

〃 志木市 篠原 俊昭 (四年六月号掲載)

〈四季の部〉

金賞 調布市 新井 利彦 (下段掲載)

銀賞 海老名市 清水 進 (本号五頁掲載)

〃 相模原市 天池 信夫 (四年三月号掲載)

〃 日野市 設楽 誠一 (本号一頁掲載)

銅賞 八王子市 原田 恵一 (次頁掲載)

〃 八王子市 渡辺 武彦 (三年十二月号掲載)

〃 文京区 小池 基夫 (三年十二月号掲載)

〃 八王子市 森松 幹治 (四年三月号掲載)

〃 立川市 本沢 七朗 (次頁掲載)



「彩」
あじさいの部 銀賞
調布市 北野 修



「紫陽花鑑賞会」
あじさいの部 銀賞
調布市 北野 芳恵



「七五三」
四季の部 金賞
調布市 新井 利彦



「雨の供養塔」
あじさいの部 金賞 日野市 橋本 昌利



「賑わう元旦の不動尊」
四季の部 銅賞 八王子市 原田 恵一



「ハイピース!!」
あじさいの部 銅賞 日野市 野村 明雄



「不動ヶ丘夕景」
四季の部 銅賞 立川市 本沢 七朗



「水たまり〜梅雨」
あじさいの部 銅賞 日野市 小山 乾

山内消息①

成田山御首首

橋本照稔大僧正本葬儀

去る二月十八日、大本山成田山新勝寺中興第二十一世御首橋本照稔大僧正がご遷化されました。五月二十二日には成田山新勝寺光輪閣に於いて、真言宗智山派管長布施淨慧親下大導師のもと本葬儀が営まれ、当山貫主も参列しました。

橋本大僧正は、一九二六年に入寺得度、二〇〇二年に貫首に就任され、宗派内外は勿論、矯正保護活動に尽力されるなど様々な社会活動に貢献されました。

当山には、先代川澄貫主の弔問並びに本葬儀に随喜ご焼香を賜り、当代貫主の晋山式にもご列席いただきました。(清水良記)

東京多摩教区

寺庭婦人会研修会

六月九日、真言宗智山派東京多摩教区寺庭婦人会研修会が開催されました。

会場は豊百豊敷の大広間にて充分なソーシャルディスタンスをとり行われ、講師には

久野秀隆先生をお迎えし「元気に輝く明日のために『フレイル予防のお話と簡単エクササイズ』」と題し、十七名が参加されました。

コロナが続く中、家の中でも健康に気を付けることを学ぶ良い研修会となりました。(丸山幸記)

御詠歌検定会 (6/11)

密厳流遍照講東京多摩教区連合会検定会を検定員に密厳流流匠林智宏先生をお迎えし開催されました。

本来であれば、検定会と平行して講習会も行う予定でありましたが、東京都に緊急事態宣言が発出中の為、感染リスクを鑑みて、今回は、検定会のみの開催となりました。

多摩教区連合会では、例年2回の講習会・検定会を開催していますが、去年は、コロナ禍により一度も開催することが叶いませんでした。しかし今回は、一年越し検定会開催ということもあり、十三名の多くの方々に検定受験にお集りいただきました。

高幡山支部からも、九名の講員様が受験され、見事に合格されました。



寺庭婦人会研修に参加された皆様

准教導 佐野良子様 権少教導 南花枝様 大島道夫様 石屋ゆう子様 安川篤恵様 少教導 後藤里美様 小室祐子様 遠藤千恵子様 山田幸枝様 以上の方々です。

コロナ禍でお稽古が少ない中での検定受験で、大変ご苦労されたかと思いますが、誠にありがとうございます。次回秋に検定会・講習会開催予定しておりますが、新型コロナウイルスが収束に向い、晴れて開催できることを待ち望んでおります。(手塚記)

青葉まつり法要

六月十五日、大日堂に於いて青葉まつり法要が勤修されました。

青葉まつりは、真言宗宗祖

弘法大師空海上人と中興の祖興教大師鑑鑊上人のご誕生をお祝いする行事です。弘法大師様は唐に渡り日本に密教を伝え、高野山を開いたと共に土木建築、教育、文芸など様々な社会活動の業績を残されました。興教大師様は、弘法大師様の教えを復興されたことから中興の祖と仰がれています。

弘法大師様のご誕生は七四年六月十五日、興教大師様は一〇九五年六月十七日、ちょうど緑が美しい季節なので青葉まつりと称しお祝いしております。

当日の法要はコロナ禍の為貫主導師のもと山内職員職衆のみで執り行われました。(杉田周記)

成田山大阪別院主監

飯島照輝大僧正本葬儀

成田山大阪別院第七代主監飯島照輝大僧正が、去る四月五日世寿八十二歳にてご遷化されました。

六月十八日、真言宗智山派管長布施淨慧親下大導師のもと大阪府寝屋川市の成田山大阪別院大師堂に於いて本葬儀がしめやかに執り行われ、当

山貫主が参列しました。(松本記)

あじさい毬切り

あじさいまつりが終り、紫陽花の花を切る毬切りが七月六・七日の両日行われました。当初は直後の一日に予定をしていましたが梅雨が長びき、晴れ間を探しての作業となりました。

境内全域を職員総出で全ての紫陽花の花を切り落します。山の中では紫陽花の枝をかき分け奥に入り、全身びしょ濡れになりながらの作業で、藪蚊にも悩まされます。しかし、この作業により株の負担を減らし、来年の花へとつながるそうです。来年の花がとても楽しみです。(宮原記)



蚊にさされながら

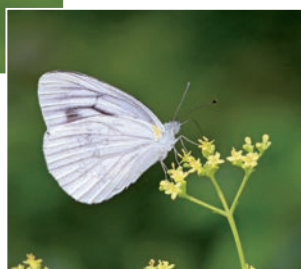
高幡いきもの曼荼羅 ①6

コロナウィルス感染の終息が見えてこない今、私達は以前と同じような生活を送り難くなりました。ただ変化したのはその点だけで、周りの自然環境までが変ってしまった訳ではありません。暖かくなれば花々と共に、生き物たちが活動的になります。ちよつと視点を變えるだけで、遠くに出掛けなくても、その息吹を目の当たりにする事が出来るのです。

例えば足元の草花にレンズを向けてみると、小さな生命が懸命に活動していることに気付きます。日頃通り過ぎてしまうような場所ですら豊穡な生命に満ちている事に驚かされます。更に小さな草



オオイヌノフグリとキチョウ



オミナエシに停まるモンシロチョウ

花たちもクローズアップしてみると、意外な美しさを秘めていることに気付かされます。いろいろと制約が多い今だからこそ、自身の足元に目を向けて、身近な自然に親しんでみてはいかがでしょうか。自由とは今ここにあるのです。



ホトケノザと昆虫名も知れぬ

なにげなくつかっている仏教のことば——大袈裟（おおげさ）

大袈裟とは、物事を実際より誇張していたり、普通より程度をこえているようすをあらわすことばです。

袈裟とは、僧侶が右肩をあらわにしてまとうものです。このことばはサンスクリット語のカシャーシャの音写語で、

赤褐色（または黄褐色）の意です。お釈迦さま時代のインドでは、修行者は捨てられた布切れを集めてつなぎあわせた外衣を着ており、その色がきたない赤褐色であったことによりまします。

これが中国・日本へと伝わ

ると、気候風土や衣服の慣習により、一部、華美なものへと変化が生じました。これが大層で大仰なものであったことから大袈裟のことばができたのでした。

（小林靖典）

お不動さま教えて？

質問 お不動さまにお参りした際、雨が降ってきたので五重塔地下の休憩所に伺うと、壁にお釈迦さまのご生涯のレリーフがありました。その中のいくつかについては、なんとなく内容が理解できたのですが、わからないものがありました。

そこでこのレリーフについて、どうかお不動さま教えてください。

お答え はい、お答えいたします。五重塔地下の休憩所にはお釈迦さまのご生涯のレリーフが十六枚掲げられています。それでは《托胎》のレリーフから順にご説明していきましょう。



托胎

これにお釈迦さまを加えて《過去七仏》と称されています。この七仏が共に伝えた『七仏通戒偈』なる詩があります。すなわち、諸悪莫作（あらゆる悪いことを

り、その足もとには三人の侍女がかしずいています。そして、上方から象（六本の牙をもつ白象）の姿をしたお釈迦さまが兜率天から降り、いままさに現世での母となるマヤーの胎内へと入ろうとしているところが表現されています。

また右の上方には、仏さまとおぼしき姿が六体おられます。これはお釈迦さま以前に出現されたと言われる毘婆尸仏・尸棄仏・毘舍浮仏・拘留孫仏・拘那含牟尼仏・迦葉仏のお姿でしょう。

にしましように。

最初《托胎》のレリーフです。托胎とはお釈迦さまが自分が生まれるのにふさわしい家系を見定めて、母胎に宿ることです。

レリーフでは、シヤカ国のシユッドーダナ王（浄飯王）の妃であるマヤー（摩耶夫人）がカピラ城の寝室で床についてお

を作さず）衆善奉行（あらゆる善きことを行い）自浄其意（自己のこころを浄めること）是諸仏教（これが諸仏の教えである）というものです。

（次号につづく）

